

躍動カフェ（北播磨地域） 議事要旨

1 概 要

- (1) 日 時 : 令和 8 年 8 月 3 日 (月) 13 : 15～16 : 05
- (2) 場 所 : やしろ国際学習塾 3 階大会議室
(兵庫県加東市上三草 1175)
- (3) 参加者 : 齋藤知事、北播磨地域に在住・在勤等しており、農業、地場産業、移住促進活動、地域づくりなど、各方面で活躍している 20 名
- (4) テーマ : 伸びゆく人 輝く産業 豊かな自然が織りなす北播磨
- (5) 内 容 : グループ別ワークショップ (A～D グループ)
知事挨拶
意見発表・質疑応答 (A～D グループ)
知事総括コメント

2 意見発表の内容

A 農業遺産を活かした地域の挑戦

発表者：藤本 善仁（進行役）

現状と課題：

- 水稻農業を中心に後継者不足が進行しており、また高額な初期投資や個人経営の負担が大きいことから、新規就農者の確保や担い手を受け入れる組織・法人の整備が求められている。
- 山田錦は一定の知名度を有しているものの、生産者自身も含め、その価値や強みが十分に認識・共有されておらず、コロナ渦による消費機会の減少も相まって、ブランド価値の再構築（リブランド化）が課題となっている。
- 水路などの農業インフラの老朽化が進む一方で、維持に係る地域負担が大きい。

課題解決に向けて：

- 兵庫県出身のタレントやスポーツ選手を起用した日本酒の CM を制作し、その CM 音楽を日本酒が有名な灘駅などの発着メロディとして活用する。また、公共交通機関でアクセス可能な場所で日本酒フェスを定期的を開催することで、日常的な接触機会を創出し、日本酒を身近に感じてもらう。
- 海外市場への情報発信や販路開拓を支援し、海外での評価や需要の向上を通じて、地域産日本酒のブランド価値向上と国内での認知拡大につなげる。
- 中山間地域と平坦地域それぞれの実情に応じて補助制度を見直し、農業インフラの維持に係る負担軽減や持続可能な農業経営を支援する。

質疑：

- 農業従事者の高齢化や担い手不足に対して、どのような取組を行っているか。

応答：

- 兼業から段階的に就農することを勧めるとともに、農業の魅力を周囲に伝えている。

B 伝統ある産業のイノベーション

発表者：藤田 典子（進行役）

現状と課題：

- 地域を支えてきた社歴の長い企業が、人口減少や収益確保の難しさなどを背景に廃業している。
- 後継者不足が深刻化しているものの、事業承継は家族や経営に関わるデリケートな問題であるため周囲に相談しづらく、円滑な事業承継が進みにくい。
- 地域や企業の魅力が十分に発信できていないことなどから、新規社員の確保が難しくなっている。

課題解決に向けて：

- 播州地域の長い歴史を活かしてブランディングを強化し、地域イメージの向上につなげる。
- 伝統産業と競合しない分野の大企業を誘致し、新たな雇用の創出や税収の増加を図るとともに、関係人口の拡大につなげる。
- 異業種の事業者や地域住民が自由に意見交換できる躍動カフェのような交流の場を継続的に設ける。

質疑：

- 播州地域のブランディングにあたり、「播州＝職人のまち」というイメージを打ち出すことで、地域の特色を分かりやすく発信できるのではないか。

応答：

- 職人文化や食など播州の多様な魅力を、相手に応じた切り口で発信するとともに、地域ごとの特色を生かしたブランディングにより地域の活性化を図りたい。

C 魅力再発見と選ばれる移住先 No.1 へ

発表者：堀井 悠次（進行役）

現状と課題：

- 移住希望者や地域との関わりを検討している人が、地域での暮らしや生活の具体的なイメージが持てない。
- 地域の魅力や住みやすさはあるものの、その価値や特徴が言語化・可視化されておらず、移住希望者に効果的に伝えられていない。

課題解決に向けて：

- 地域住民しか分からないご近所の関係性、自治会の費用、子供会や老人会の有無、子育て環境などの生活情報をまとめた「北播磨くらしマップ」を作成し、移住希望者に地域での暮らしを具体的にイメージできる情報を提供する。

- 地域住民がワークショップを開催し、地域住民自らが地域の魅力や暮らしの価値を見つめ直し、現状を把握する。
- 各地域の取組を表彰・評価する仕組みを設けることで、地域間の交流・競争意識を高め、地域力の向上につなげる。

質疑：

- 「北播磨くらしマップ」は、自治会活動や地域の慣習など、移住前には分かりにくい地域情報を可視化し、移住後のミスマッチや早期転出を防ぐ有効な取組だと思った。

応答：

- 「北播磨くらしマップ」の作成に加え、移住希望者と地域をつなぐ移住コーディネーターのような人材を配置することで、移住前後のギャップを減らし、安心して地域に定住できる環境づくりにつなげたい。

D 若者×北播磨これからの地域づくり

発表者：壺井 祐輔（進行役）

現状と課題：

- 進学や就職を機に北播磨を離れた若者が地元に戻りにくくなっており、地域との継続的なつながりや関係人口の確保が課題となっている。
- 地域活動への参加や起業・就職などに挑戦する意欲がある若者がいる一方で、地域とのマッチングや情報提供の機会が不足しており、チャレンジにつながりにくい状況にある。

課題解決に向けて：

- 地域の企業・団体と繋がりがある民間のコーディネーター（相談窓口）を設置し、若者の地元での就職や起業、地域活動への参加などのチャレンジを後押しする。
- SNSなども活用した気軽に相談できる仕組みを整備し、地域づくりに関わるハードルを下げる。

質疑：

- 地域が若者や移住者を受け入れる「オープンマインド」を持つことは重要だが、それを実現するための具体的な方法や、地域が受入れに前向きであることを効果的に発信する方法について伺いたい。

応答：

- オープンマインドな地域づくりには、地域をつなぐ人材の確保・育成が重要。また、SNSは地域の開かれた姿勢を発信する有効な手段の一つである。

3 知事総括コメント

- 様々な分野にわたる意見をいただき、大変興味深く拝聴した。
- 農業を県政の重要な柱と位置付け、暑さに強い品種の導入や有機農業アカデミーによる新規就農者の育成を進めている。また、半農半 X* など多様な就農形態を支援するとともに、山田錦や日本酒など兵庫が誇る農産物・特産品のブランド力向上と PR 強化に取り組んでいく。
- 企業誘致や播州織などの地場産業の振興を進めるとともに、地域課題の解決につながるテクノロジーを有するスタートアップ企業を支援していく。また、「ひょうごフィールドパビリオン」のスタンプラリーなどを通じて、地域の魅力発信にも取り組んでいく。
- 空き家や古民家の活用を進めるエリアマネジメント団体を認定し、民間主体の地域活性化や移住促進を支援している。また、市街化調整区域の規制緩和などにより、空き家や遊休地の活用を促進し、移住者数の拡大につなげていく。
- 若者が学び、働き、挑戦しやすい環境づくりを重点的に進めており、不妊治療支援や産後ケア、教育環境の充実、奨学金返済支援などを実施している。また、高校生の海外留学支援や不登校対策などを通じて、チャレンジする若者と支援を必要とする若者の双方を応援していく。

※半農半 X：農作業を行いながら、農業以外の得意分野・大切なことを活かした仕事に就くという暮らし方